

## 公立大学法人九州歯科大学

### I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標（中期目標期間：平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度で第2期の中期目標期間が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評価をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「達成状況が良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、大学の個性を生かした特色ある教育を行うなど、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成をはじめとした取組を着実に実施している。

また、中期目標に掲げている重点事項についても、学生の歯科医療人としての自覚を高めるため、歯科医学教育センターを立ち上げ、歯学教育全般の改編を図るとともに、口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療関係者に対して、リカレント教育を行うなど、全体としては、達成状況が良好であると認められる。

歯科保健医療の現場において、医療技術の高度化・専門化に加え、高齢化の進展に伴う疾病構造の変化など、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、質の高い教育活動を展開し、国家試験合格率の高水準での維持をはじめ、高度な専門性を持った歯科医療人の育成を進める必要がある。

平成30年度から第3期の中期目標期間に入り、新たなスタートを切った公立大学法人九州歯科大学が、理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

### II 項目別評価（中期目標項目別評価）

#### 1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
  - ・演習科目を充実させた初年次教育に再編し、プロフェッショナルリズムの醸成をカリキュラムの中に位置づけるとともに、歯科医学教育センターを立ち上げ、単独科目として開講した早期登院実習や学外宿泊研修などの充実を図っている。

- ・臨床登院実習を中心にカリキュラムを充実し、他職種連携の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の合同講義などを実施するとともに、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験のトライアルを実施するための体制を整備している。
  - ・臨床実習技術指導の充実やチューター制度の活用、個別指導体制の強化を図るとともに、学生データ等を分析するIR室や歯科医師国家試験分析室を設置し、歯科医師国家試験合格率の向上に積極的に取り組んでいる。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成
- ・口腔保健学専攻修士課程を設置し、入学定員充足率を充たすとともに、歯学専攻博士課程に進学できる体制を整備し、修士課程修了者が進学するなど、人材の育成を進めている。
  - ・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、4大学間で締結した協定に基づき、単位互換を実施するとともに、国際会議を開催し、大学院生による研究発表を行うなど、医歯工連携により人材を育成している。
- (3) 教員の教育力の向上
- ・ファカルティ・ディベロップメント部会、一般スタッフ・ディベロップメント部会、医療系スタッフ・ディベロップメント部会を設置し、大学ガバナンスや教職協働に関する研修を行うとともに、学長等による多面的な個人業績評価や学生及び教員による授業評価を実施するなど、教育活動の改善に努めている。
- (4) 適性のある優秀な人材の確保
- ・模擬講義の実施などの高大連携に取り組むとともに、高校訪問、オープンキャンパス、施設見学会等の入試広報活動を積極的に実施し、志願倍率を高水準で維持している。
- (5) 学生への支援
- ・教職員が一体となって、きめ細かな学生支援を実施するとともに、学生支援に関するアンケート調査やキャンパスライフ・ガイダンス、保護者説明会等を実施している。
  - ・学生との面談やセミナーの開催、民間企業や総合病院等への就職の開拓など、就職支援実施会議を活用した組織的就職支援により、口腔保健学科において、就職率100%を達成している。
  - ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。
- ・「地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト」において医歯

工学連携を推進するとともに、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に連携校として参加するなど、産学官連携を推進している。

### 3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

社会貢献については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障害や全身疾患がある患者の口腔機能向上に関する実践的教育を実施するとともに、全国各地の関連セミナーで講演を行うなど、リカレント教育の充実を図っている。
- ・7か国・地域10大学と学術交流協定を締結し、短期留学生の受入れや、海外学生短期派遣プログラムを正規の選択科目として実施するなど、海外大学との交流を促進していることを評価する。
- ・幼稚園、老人クラブ等で歯科口腔保健に関する講演や相談を実施し、子育て支援や高齢者の健康増進に資する普及・啓発を行っている。
- ・熊本地震及び九州北部豪雨災害に係る募金活動を実施した。

### 4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行っている。
- ・患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るため、附属病院の診療体制を再編するとともに、電子カルテシステムの導入により、診療業務の効率化や診療科間の連携化、臨床教育の充実を図っている。
- ・地域医療関連病院等との連携を拡充し、高齢者を中心とした口腔医療を訪問診療で提供するなど、地域包括型歯科医療連携体制を整備している。

### 5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。

- ・ 歯科診療所では対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の体制を整備し、実施回数が目標を上回った。

## 6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

評価及び情報公開については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。
- ・ 創立百周年記念事業を実施し、大学情報を広く発信するとともに、創立百周年記念事業募金により設立した基金を活用して、国際交流活動を推進するなど、大学のプレゼンスを高めている。